



図1 茎崎の課題だと思うこと

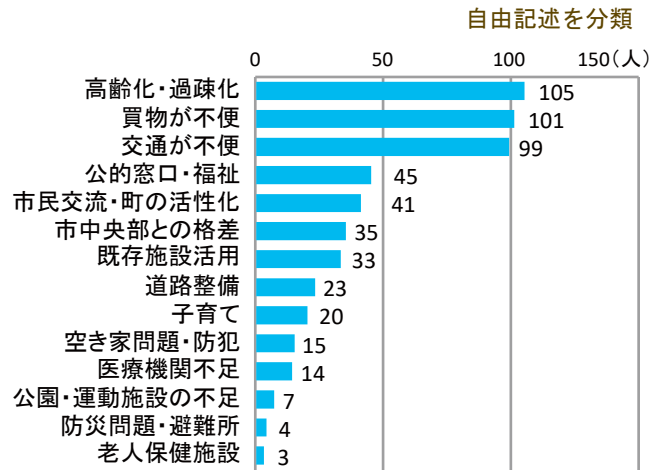


図2 茎崎庁舎跡地にあつたらよいと思う機能

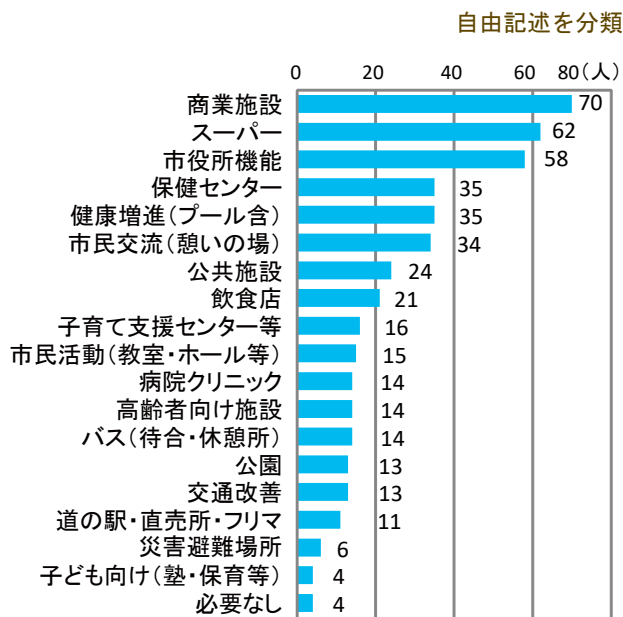


図3 回答者の年代別内訳

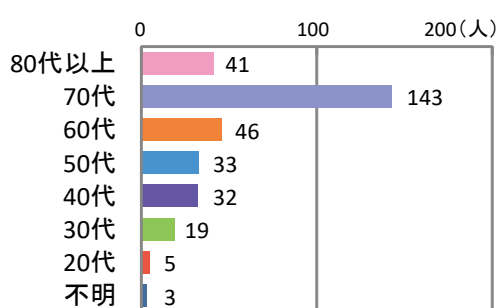
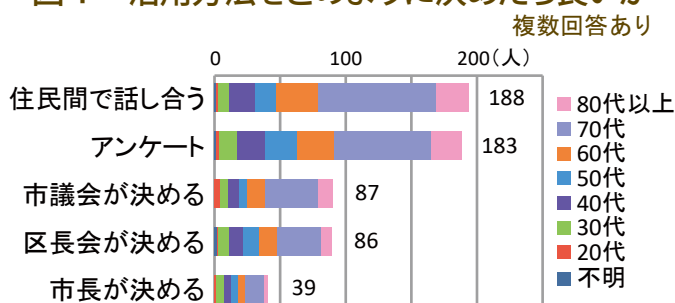


図4 活用方法をどのように決めたら良いか



茎崎庁舎跡地を どうする？

つくば・市民ネットワークには、市内のあちこちから、地域の課題について様々な意見が寄せられます。これらの課題解決のため、市民ネットワークでは現状把握のアンケートや当事者同士の話し合いを行ってきました。

アンケート結果報告

大事なことは自分たちで決めたい！

の説明会では、公共施設併設型スーパーマーケットとする方向性を示しました。しかし、保健センターを撤去する計画であったため、保健センター存続を求める声が上がりました。その一方、早く進めて欲しいという声もあります。そこで市民ネットワークでは、茎崎地区の住民の意見を把握しようと、アンケートを実施しました。

アンケートから 見えてきたこと

本年1月～3月に茎崎地区の約6000世帯に配布し、315



人から回答がありました。結果は図1～4の通りです。ただし、回答者の年代を見ると70代の人が多く、この結果をそのまま茎崎地域の住民全体の意見とは言いきれません。多様な世代の意見を引き出す工夫が必要と思われます。

もっと住民間で 話し合いを！

また、庁舎跡地の活用方法をどのように決めたら良いか、という問いに、「市議会／区長会／市長が決める」よりも「住民間で話し合う／アンケート」が、多くの世代で上回りました。市はこれまで説明会を開催してきましたが、住民同士がじっくり話し合う場にはなっていなかったと思われます。

茎崎庁舎跡地の活用問題は、地域の課題解決について住民同士で話し合うチャンスです。そして、茎崎の経験を他の地域の課題解決にも生かせたら、市民参加の新しい形が見えてくるのではないのでしょうか。みんなで話し合いの場を作っていきましょう。

会派代表質問※より 本当に大丈夫?!「スーパーシティ」

昨年5月、国会で国家戦略特別区域法等の改正法案（スーパーシティ法案）が成立しました。「スーパーシティ」とは、AIやビッグデータなどの最先端技術を活用し、過去に類例のない規制緩和を行い、「まるごと未来都市」の実現に向けて国と事業者と地域が一体となって目指すものです。

個別分野での取り組みや一時的な最先端技術の実証にとどまっている「スマートシティ」に比べ、「スーパーシティ」は、医療・介護、教育など生活全般にまたがるさまざまな分野のデータを一元化。移動や支払いなどデータのやり取りを可能にし、実証実験にとどまらず暮らしや社会に取り入れようとするものです。

例えば「ひとりで通院することが困難なお年寄りへの課題解決策」として、『病院の予約に合わせて（自動運転）バスに乗れるよう、自動走行車イスが自宅まで迎えに行く。バスに乗り込む際の顔認証で病院の受付が完了、運賃の支払いもキャッシュレスで行われ、受診後帰宅すると薬がドローンで配送される。』とまるで映画のようです。

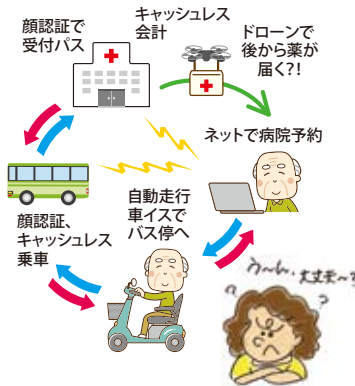
しかし、自動運転を可能にするために、いたるところに監視カメラを設置したり、通信基地やサーバーの

増設も当然必要になるでしょう。さらに、健康保険証やクレジットカード、住所や顔の個人データが連携することになります。個人情報の取り扱いや漏洩への対策は大丈夫でしょうか？つい先日LINEの情報管理問題が世間を騒がせました。マイナンバーカードと健康保険証の一体化も誤った情報が表示され延期になりました。

そもそも課題解決策として、自動走行車イスやドローン配送が最適なのでしょうか？人の仕事を奪い、人と人とのコミュニケーションの機会を奪うことにはならないでしょうか？事故を起こした時の責任はどかが負うのでしょうか。

せめて、個人情報が適切に扱われているか、住民の人権を侵害していないか等、批判的にチェックする体制が必要だと訴えましたが、答弁でははっきり確認できませんでした。

今回、公募により全国で5つの地域が「スーパーシティ」に指定される予定です。つくば市も応募するとのことですが、市民ネットは今後も、監視社会や個人情報漏洩、電磁波による健康被害などにつながると懸念されるこの「スーパーシティ構想」を厳しくチェックしていきます。



つくば市議会議員
文教福祉委員会副委員長

小森谷さやか

会派代表質問項目

- ・会計年度任用職員
- ・市民参加指針の条例化
- ・高齢者の生活支援と子どもの貧困対策
- ・コロナ政策

おとな子どもも 性的少数者への理解を!

性的少数者=LGBTは12～13人に1人程度と言われています。性的少数者はいじめの対象、不登校になる可能性が高く、自殺者の中には相当数含まれるともいわれています。私には若い頃から性的少数者だとカミングアウトしている親しい知人友人がおり、当事者の苦しみに接し、喫緊の課題だと捉えていました。これまで議会ではこのテーマに関する発言はなく、今回、一石を投じる気持ちで質問をしました。

つくば市では、性的少数者に関して、市民への広報など取り組みが始まっている点もありましたが、私が最も重要と考える「心の健康」「自殺防止」「学校でのいじめや不登校」に関して、性的少数者の視点は入っていないことがわかりました。当事者は10歳ごろから自分の性への違和感を自覚するため、周囲の

大人が正確な認識を持ち、伝えることが非常に大切です。学校内では性的少数者への理解を深める図書の導入、啓発ポスター掲示等の要望をしました。

折しも3月17日、札幌地方裁判所で『同性婚を認めないのは「違憲」』との判決がありました。婚姻に準ずる制度として各自治体で「パートナーシップ宣誓制度」が始まっており、茨城県にも2019年より制度がありますが認知度は高くなく、つくば市でも更なる周知を要望しました。

まずは知ること、理解することから。今後も具体的に提案していきます。



「わが子の声を受け止めて 性的マイノリティの子を持つ父母の手記」より

息子がカミングアウトしてくれたのは、高校生の時でした。中学生の時に自分がゲイだと気づいたという息子は、自分が死ぬまで恋人も出来ず、結婚もせず、たった一人で生きていくと思うと本当に寂しかった、自殺も考えたことがあった、と言いました。～中略～

中学生のころからは、学校から帰るとすぐに寝ていました。成績もどんどん落ちていくばかりで、受験生のときに部屋をのぞくといつも寝ているので、怠惰な息子だと呆れるだけの私でした。けれど、あのころは寝ることしか自分の苦しみを忘れることが出来なかった、と後で聞きました。高校入学直後には、今思えばうつ病の兆候と思われるような行動が担任の先生から報告されていましたが、それでも、先生も私も、彼の本当の苦しみに気づくことは出来ませんでした。～中略～

自己肯定感を育むべき思春期を、誰にも話せず、誰からも守られないまま、それらの中でじっと耐えながら過ごしてきたのです。息子はなんとか生き抜いてきてくれました。でも、もしそのなかばで耐え切れなくなっていたら…。

今もお息子のように、じっと耐えている子どもたちが、学校にはたくさんいることでしょう。

先生方には彼らを支え守り、だれもが自分らしくあることに誇りを持てるような教育を、ぜひお願いしたいと思います。(ゲイの母 60代)

手記集全文はこちらから→



平成26年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業
個別施策層のインターネットによるモニタリング調査と
教育・検査・臨床現場における予防・支援に関する研究
研究代表者:日高庸晴(宝塚大学看護学部教授)

2021年3月議会議決結果

議決の結果 (○：賛成、×：反対)		会 派 名	つくば・市民 ネットワーク	つくば自民党・新しい風	自民党 政清クラブ	公明党 つくば	日本共産 党つくば 市議団	勝手に ひとりの 会	山中 八策の会	新社会党 つくば	新緑会	清郷会	創生 クラブ	つくば チェンジ チャレンジ
議案8号 令和3年度つくば市一般会計予算	可決		○	○	× ○：木村修	○	×	○	○	○	○	○	○	○
議案27号 つくばセンター広場条例の一部を 改正する条例について	可決		○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○
各会派の所属議員(敬称略) *は会派代表(議員数28 議長：小久保)			*小森谷、川村 あさの、皆川	*黒田、長塚、神谷 小久保、五頭 ヘイズ、久保谷	*飯岡、宮本 木村修、塚本 鈴木	*小野 山本 浜中	*橋本 山中	*小村	*塩田	*金子	*中村	*木村清	*高野文	*川久保

●「新型コロナウイルスワクチン接種に関する意見書」「新型コロナウイルス感染症拡大防止へ大規模検査の実施を求める意見書」が可決され、国へ意見書が提出されました。
「ゼロカーボンシティ宣言に関する請願」は採択、「『最低賃金の大幅引き上げと中小企業支援策の拡充を求める意見書』採択の請願書」は趣旨採択になりました。



つくば市議会議員
総務委員会副委員長
あさの えこ

一般質問項目

- ・プレイパークの拡充のためにできること
- ・生活系ごみの減量と最終処分場について

「プレイリーダー」はやってくる多様な子どもに寄り添い、気持ちを受け止め、その場所にいられるように関係を見守っていきます。子どもが生き生きと遊べる環境にするのが「プレイリーダー」です。「プレイリーダー」がいることで、学校でも家でもない「居場所」としてのプレイパークができていきます。



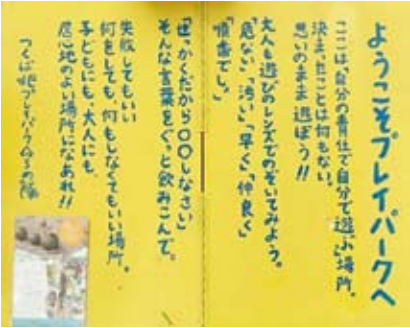
ワクワクできる **プレイパークを作ろう!**

■子どもはどこでも自由に遊ぶ!?

大人はそう言います。しかし今の大人の子ども時代とは全く違う状況があります。それは「危ない」という情報が増え、子どもに「やらせてはいけない」と思うことがとても多くなっていることです。そしてそのことだけが子どもに伝わりがちです。その結果、「怒られそうだけど面白いからやってみる」はいけないこと、「ダメと言われたらダメなんだ」と幼い頃から学習し、それが“自分の考え”になっているのではないのでしょうか。「危ない」「汚い」「〇〇しなさい」…そうした大人の干渉をなくした場所、それがプレイパークです。

■「やりたいことをやる」を保証するプレイリーダー

「リーダー」と聞くと「管理者、指導者」というイメージがありますが、



プレイパークの看板

■豊かなプレイパークをつくば市内にもっと!

市民ネットは、「プレイパーク」について2017年より毎年議会でも取り上げ、流星台プレイパークの実現や公園でプレイパークを開催することへの理解が少しずつ進んでいます。市内のあちこちにプレイパークがあれば、もっと多くの子どもが遊ぶワクワク感を取り戻せるのではないのでしょうか。そのためにはプレイリーダーがもっと必要、と考え、つくば市としてのプレイリーダーの役割の認識と養成について質問しました。

プレイリーダーは子どもの遊ぶ環境を整える存在であり、プレイパークの拡充に向けての市民向けの学習会の開催を検討する、との答弁がありました。

市が主催する講座から多くのプレイリーダーが生まれ、市の貴重な財産である公園で、市民が行政と協働しながら作っていく、そんなつくばらしいプレイパークを増やしていくために、今後も働きかけていきます。



子ども発、丸太セグウェイ! 教えるのも子ども

「学校給食センター整備方針」が、3月議会で方向転換

昨年末12月25日に、突然、7000食を供給する新桜給食センター建設計画案が示され、3月議会にはこの新桜給食センター建設のための令和3年度予算が計上されました。

昨年3月時点では、老朽化した荃崎給食センターはそのまま建て替え、現在稼働中の新谷田部給食センターと豊里給食センター、筑波給食センターの4つで給食を供給していく計画でした。ところが、その直後に推計した児童生徒数が大幅に増加に転じたため、新桜給食センターを建設し、荃崎給食センターは廃止する、という方針が出されたのです。

この新しい計画に対して1月22日から2月21日にパブリックコメントが実施され、13件の意見が寄せられました。「食育の

観点から大型給食センターを見直して欲しい」、「地域の農業という特性を生かし、畑や生産者の顔が見える自校式給食を実現して欲しい」等の要望が出ました。

さらに、その直後の3月議会での一般質問や文教福祉委員会でこの件についての議論があり、市長は、荃崎給食センターを残すことについて検討していきたい、と発言。その後開催された学校給食センター運営審議会で、新桜給食センター建設計画はそのまま進め、合わせて給食のあり方について、自校式給食も含め検討していくことになりました。

つくば・市民ネットワークは設立以来、自校式給食を求め市に提案してきました。センター方式は配送時間確保のために調理時間が短くなり、食事時間も短くなってしまいます。一方、自校式給食は調理員と子ども達、生産者との交流がしやすく、お互いの思いや、感謝の気持ち、愛情が直接伝わり、食育の効果が高まります。さらに授業や行事に合わせた献立も実施しやすくなります。

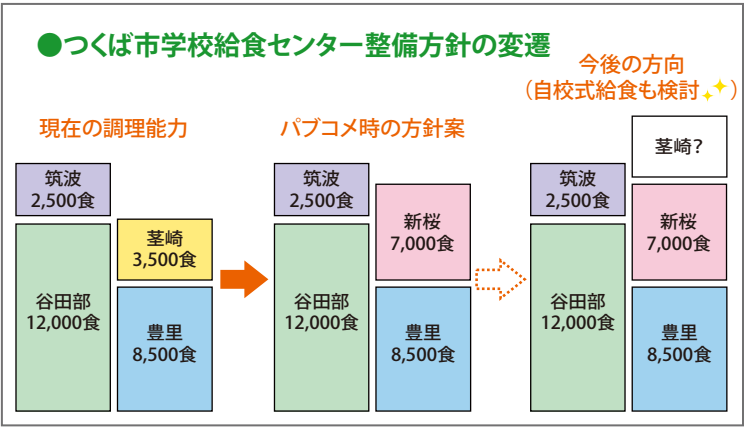
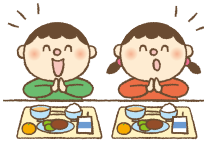
今回、パブコメという市民の声と議会の議論により、市の方針が軌道修正されました。市民ネットは引き続き、効率や合理性だけでなく、子どものため、未来の地域づくりのための給食のあり方を提案していきます。



つくば市議会副議長
都市建設委員会委員
皆川 ゆきえ

一般質問項目

- ・原発災害の際の茨城県広域避難計画に基づく水戸市との協定
- ・学校へのタブレット導入と健康影響
- ・学校給食のあり方



市民ネット提案
意見書案可決

新型コロナウイルスワクチン接種 自己決定の尊重を!

新型コロナウイルスワクチンの接種が開始された。感染拡大や重症化予防の観点から期待される一方、不安の声もある。厚生労働省ホームページには、「ワクチン効果の持続期間や接種による集団免疫の効果は明らかになっていない」「接種は強制ではなく、十分な情報提供を行ったうえ、同意がある場合に限り接種する」「職場や周りに接種を強制したり、接種を受けていない人に差別的な扱いをしない」と明記されている。また、世界的に接種は初めてであり、副反応発生についての情

報も乏しいワクチンの接種を控えたいと考えるのも無理はない。

今議会最終日に、ワクチンを接種しない人への心無い中傷や同調圧力などが生じないよう国へ対応を求める「新型コロナウイルスワクチン接種に関する意見書」提出を提案。全会一致で可決した。

コロナ感染予防には、手洗い・マスク着用、外出自粛など様々な予防策がある。ワクチン接種が万能ではない点も考え、自己決定が尊重される社会を目指したい。



意見書の全文は
こちらから



2021年4月23日 Vol.67 第2版

主な活動報告

- 1/ 9～17 Web「セクシャルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会2021」参加
1/18 臨時市議会
1/18、2/4、3/4 市議会全員協議会
1/18、1/27、2/3 中心市街地まちづくり調査特別委員会
1/24、2/21 生活相談会開催
2/ 3、2/19 高エネ研南側未利用地に関する調査特別委員会
2/15 スーパーシティ説明会(Web)参加
2/15～3/19 3月定例市議会
2/20 つくば市民ネットワーク第17回総会
3/ 7 DVD「ドキュメンタリー県民投票」上映会参加
3/ 9 生活クラブ運動グループ協議会
3/13 茨城ワーカーズコレクティブ協議会
3/16 Web「海洋プラスチック汚染に立ち向かうために(原田禎夫さん)」参加
3/17 Web「新型コロナワクチン、PCR検査、消毒剤の問題点(木村・黒田純子さん)」参加
3/18 Web「子どもの明るい未来を拓くには(川島隆太さん)」参加
3/22 Web「ゲノム編集作物の規制と表示についての意見交換会」参加
3/27 Web「デジタル監視法案」学習会参加
3/28 Web「市民と議員の条例づくり交流会議2021」参加
※テーマごとの部会活動の他、市の各種委員会・審議会等も多数傍聴しています。

2つの署名活動を行います ご協力をお願いします

種苗への遺伝子操作の表示を求める署名

筑波大学とサナテックシード社で共同開発されたゲノム編集高GABAトマトの栽培・販売が認められました。しかしこのトマトの種苗にも食品にも表示の必要が無く、このままでは知らないうちに栽培したり、食卓に登場することになりかねません。ゲノム編集作物が栽培されようとしている今、種苗への表示は絶対に必要です。遺伝子操作作物や食品を、栽培したくない生産者、使いたくない事業者、食べたくない消費者の選択の権利を求めます。6月末締切。



Web署名は
こちらから

2030年度の再生可能エネルギー電力目標を60%以上に、2050年度は100%を求める署名

自然と共生し持続的に暮らしていくため、巨大なリスクを抱える原発、温室効果ガスを大量に排出する石炭火力発電の廃止を進め、エネルギーの効率化と再生可能エネルギーの大幅な拡大を求めます。5月末締切。



Web署名は
こちらから

※署名用紙が必要な方は事務所までご連絡ください。

実現不可能な避難計画により、 東海第二原発は運転差し止めに

一審
判決

3月18日、“東海第二原発運転差し止め”が水戸地方裁判所により日本原電(株)に命じられました。この判決に至った主な理由は、「実現可能な避難計画や実行する体制が整えられているというにはほど遠く、防災体制は極めて不十分」というものでした。

その直前の3月議会、市民ネットの皆川議員が避難計画について質問しました。つくば市は、原発事故の際の水戸市民の避難先として2016年に協定を締結していますが、いまだに避難者数が確定していないという答弁でした。県からは1人あたり避難スペースを2m²で算出するよう指示が出ているようですが、コロナなどの感染症対策を考慮すれば、1人あたり2m²では全く足りません。他にも、2年前から課題として上がっている、食料などの物資調達や駐車スペース不足、スクリーニングの実効性、などについても、いまだに課題解決にはいたっておらず、極めて非現実的な避難計画です。

水戸地方裁判所が避難計画を問題として判決を下したのは当然の帰結です。日本原電(株)は翌日に控訴していますが、高裁、最高裁でも住民の安全確保を第一にした適正な判断がなされることを望みます。

また、東海第二原発再稼働の期限が来年末に迫る中、再稼働是非の鍵を握る衆議院選挙と県知事選挙が今年秋までに行われます。一人一人が、原発について再考し、投票にのぞむ必要があると考えます。



茨城県東海村にある
東海第二原子力発電所

傍聴記

3月議会のあさのえくこ議員の一般質問を傍聴してきました。

「プレイパークについて」の質問では、子どもたちのよりよい育ちのための取り組みに対して、関係部署や市長が前向きに考えてくださっている様子が伝わってきました。

また「一般廃棄物処理対策について」の質問では、つくば市で排出される生活系ゴミの排出量は全国平均より多く、残渣を持ち込んでいる下妻の施設では残余年数があと約5年であること、そして残渣は山形県米沢市にある施設にも持ち込まれていること、それに伴い費用(=税金ですよね)がよりかさみ、環境に対する負荷も高いことを初めて知りました。

私自身全く危機感がありませんでしたので、知ることができて本当に良かったです。持続可能な街づくりのためにも現状がより早くしっかり伝わる対策が急務であり、市民一人一人がゴミ削減に対して早急に行動していかなければなりません。

議会傍聴は初めてでしたが、市政に対してより身近に感じ、市民として主体的に考え行動するきっかけとなり非常に意義深い時間となりました。(E. Y)

生活相談会

生活再建へ向け、共に考え活動していきます

「コロナの影響で生活困窮しているが、相談先も分からず一人で困っている方がいるのではないか?」そんな思いから1月・2月に生活相談会を市民ネットの事務所で開催しました。これまで8名の方の相談を受けました。



長引くコロナによる自粛要請で、事業者だけでなく派遣やアルバイトの人たちにも、厳しい影響が生じていると同時に、コロナ以前からの生活困窮の問題が顕在化してきたと実感しています。今後も、住居確保や生活保護を始め、どういった公的支援が受けられるのか、支援として何が必要なのかなど、課題に合った解決策を当事者の方と一緒に探していきたいと思います。

議員と話そう!会

定例市議会の報告を兼ね、代理人(市議)の皆川、小森谷、あさの、川村を交え、様々な情報と意見交換を行います。お気軽にご参加ください。

5月15日(土) 14:00～16:00 つくば・市民ネットワーク事務所
(つくば市二の宮2-1-3 クラフトビル1F)